# アカシア探検隊

～セレッソ大阪首脳を直撃！～

48回卒　鬼武健二氏

大阪サッカークラブ株式会社

代表取締役会長

**甲**：おい。こんだぁ大阪行くで。

**乙**：お、ユニバーサルスタジオですか？

**甲**：お前は子供か！セレッソ大阪の鬼武健二先輩のところじゃ。

**乙**：セレッソ大阪と言えば、元はヤンマーサッカー部ですね。あの釜本やらネルソン吉村なんかがいた。現役でいえば広島出身の森島や、売り出し中の大久保もセレッソですよね。

**甲**：おー。よー知っとるじゃん。

**乙**：ヤン坊マー坊天気予報で育った世代ですから。ところでヤン坊とマー坊はどっちが年上で、それぞれ何歳か知ってます？

**甲**：そんなん知るか！

**乙**：それからヤン坊マー坊天気予報の歌詞ってテレビでは途中を端折っとるっちゅう噂もあるんですよ。

**甲**：そんな事聞きにわざわざ大阪へ行くんじゃないんで！

ということで、今回は48回卒業の鬼武健二氏の登場です。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

鬼武健二氏は昭和37年、早稲田大学卒業後、ヤンマーディーゼル株式会社に入社され、選手として6年間、第三代の監督として11年間ヤンマーサッカーを支えてこられました。監督時代は世界の釜本らを率いて日本リーグ優勝3回、天皇杯優勝3回を成し遂げられました。又監督として93勝は今も日本サッカー界に燦然と輝く金字塔となっています。

監督の座を釜本氏に譲られた後は社業に専念され、マリンレジャー営業部長、株式会社ヤンマーマリナックス取締役社長を歴任されました。しかしJリーグ発足に伴いサッカープロ化推進室長に就任。平成5年12月に大阪サッカークラブ株式会社　代表取締役社長、平成12年2月に同、代表取締役会長に。現在も日本サッカー発展の為に活躍されています。

**甲**：本日はお忙しいところ、わざわざお時間を頂き有難うございます。

**鬼**：いやぁ、広島から良く来てくれたね。初対面だけど懐かしい感じじゃね。

**乙**：早速で申し訳ないのですが、ヤンマーディーゼルに入社されたきっかけは、やはりアカシア会に関係あると聞いておりますが？

**鬼**：ええ。39回卒の古川能章さんに誘われました。古川先輩と言えば昭和22年の全国大会、国体の2冠の時のハーフバックでね。その時のメンバーにはあの長沼健さん（39回）もいらっしゃいました。古川さんはそもそもヤンマーサッカー部の産みの親なんですよ。昭和32年に古川さんを中心に社員に声をかけてヤンマーサッカー部は誕生したんです。発足時は14名のスタートだったそうです。私の入社当時は主将を務められていましたが、チームの強化の為に一生懸命に頑張っておられました。

**乙**：早稲田の先輩でもあるし、すんなり決断された訳ですね。

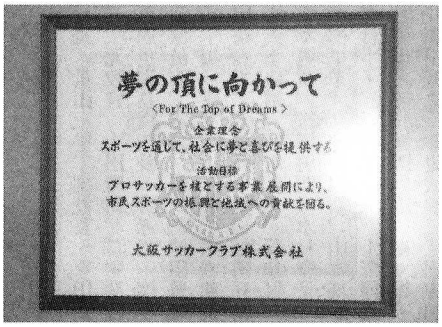
**鬼**：いやいや、そうでもないよ。だいたい「ヤンマー」なんて知らんかったもん。今思い出せば大学4年時に、特急「安芸」に乗って帰省しようとした時、東京駅にあったヤンマーディーゼルの看板を初めて見て「何を作っとるんかなぁ？」って思ったぐらいじゃから。それにサッカーで生きていこうとはあんまり思ってなかったし。でも古川さんに熱心に誘われてね。とにかく「チームを強くしたい！」と言う気持ちが直に伝わって来たわけよ。つまり、「これから絶対強くなるチームだ！」と確信して、「それならワシが入って強うしたろう！」と。それに大阪は東京に比べたら広島に近いしね。古川さんの「大阪もエエとこでぇ。」の一言が決定打。

**甲**：で、実際入社されてみてどんな感じでしたか？

**鬼**：いや、まぁなんというか。草サッカーもエエとこでね。練習も仕事をきっちり終えてから。ナイター設備なんか当然無いからヤンマーの電光看板の下でやってました。でもみんな前向きでね。喧嘩腰というか、ひたむきにやってましたよ。そのおかげか、着実にチームは強くなって行きました。会社もバックアップしてくれたし。でも古川さんは厳しかったね。休みを利用して遠征する訳だけど、次の月曜日は絶対休めない。「居ねむりしとってもエエから会社に行け！」って尻を叩かれましたよ。会社の気持ちに決して甘えなかったんです。

**乙**：選手として6年間、監督として11年間ヤンマーサッカーを支えてこられましたが、今振り返ってみてどんなご感想をお持ちですか？

**鬼**：うーんそーねぇ。「草サッカーから日本一まで全部味わった」って感じじゃね。まさに最底辺から頂点まで行ったわけだから。それからアカシア関係で言えば、日本リーグが始まった最初の年に悔しい思いをしたねぇ。最終節に母校のグランドで東洋工業と対戦したんだけど、11―0で負けてねぇ。ウチは監督が古川さん、私がFWでアカシア、相手は桑田隆幸（50回）君に小城得達（51回）君がアカシア、この二人に5点と4点とられたよ。恥ずかしかったと言うか、悔しかったと言うか…。でも古川さん曰く「負けてもいい。もまれてもまれて強くなるんじゃ。」



（編集部注：この試合に、東洋工業からはお二人の他にコーチとして大橋謙三（44回）、選手として桑原弘之（46回・平成14年没）、大島治男（49回）、丹羽洋介（49回）、桑原楽之（51回）、船本幸路（51回）の各氏が出場していたもよう。）

**甲：**監督としては日本リーグ93勝という素晴らしい金字塔を打ち立てられましたが、どんなことに主眼を置いて指導されたのですか？

**鬼：**とにかく「基本」ですよ。サッカーは走る、蹴るじゃから。また、選手の「個性」と言う基本も大事にしました。「出来ることをどんどんやれ！　出来んことはせんでエエから自分の持っている個性を最大限に活かせ！」ってよく言ってました。そして徹底的に練習、練習、また練習。監督になって初めてわかったことですが、最後はこれしか無いんです。選手時代にわかっていればもっといい選手になれたんじゃがのぅ（笑）。

**乙：**それで南米型の個性派集団ヤンマーが出来上がっていったのですね。

**鬼：**選手は基本技術・基礎体力、そして個性を徹底的に鍛え、伸ばす。監督はそれを「如何に組み合わせてチームとしてのカタチを創ってゆくか。」言い換えれば「11の基本を試合でどうやって表現するか」だと思っていました。釜本なんかもそうよ。彼は誰もが認めるスペシャリストですが、その個性を活かすための別の個性が絶対に必要なわけ。釜本と吉村やカルロスを組み合わせて初めて攻撃の基本が出来上がる。釜本は良いセンターリングをあげてやれば10本のうち7本は決めてくれる素晴らしいストライカーでしたが、不正確なボールには見向きもしないような所がありました。そこで、吉村のような正確なパスが出来る選手が必要なんよ。個性いや、基本の組み合わせこそがサッカーの全てよね。

**甲：**監督退任後は社業に専念されたようですが。

**鬼：**サッカー部に籍を置いていた時から、「ウチはサッカーを理由にしない」と言う雰囲気や意識が強かったからね。現役選手でも他の一般社員に負けない成績をあげていたのがたくさんいましたよ。サッカー部OBで幹部に昇進したのが多いのはそんな雰囲気や意識と関係あると思うね。私の場合もそう。運が良かったのか、未開拓分野の仕事を多く任されてね。性格にぴったりで、仕事も意欲的にこなす事が出来ました。今思えばそれもサッカーのおかげかな。

**乙：**高校時代の思い出をお聞かせ願えますか？

**鬼：**いやー。今思い出しても楽しかったねぇ。サッカー自体はもう少しのところで全国大会出場を逃して悔しかったけど。先輩や同級生、後輩たちと楽しい時間が過ごせましたよ。合宿でも先輩に怒られ、鍛えられ、世話になってねぇ。今でもそのときの付き合いが続いているわけだからね。いい雰囲気の学校、クラブだったと思います。

**乙：**アカシアのメンバーの皆さんに対して何かメッセージをお願いできますか？

**鬼：**皆に対してというわけではないですが、私自身がアカシアのメンバーであることにものすごい誇りを感じています。よそにはない、強い絆でメンバーが結ばれているように思えるんです。それまで会った事がない人でも「アカシアのメンバー」と言うだけで打ち解けて話が出来る雰囲気があると言うか…。特に30歳を過ぎた頃からそれを強く感じるようになりましたね。ですからその雰囲気をもっともっと大切にして、アカシアの絆をより強いものにして欲しいです。

　それから我等が母校の存続問題をもっと真剣に捉えるべきではないでしょうか？　時々同窓会や近畿アカシア会でも話題になるけど、なんかあんまり危機感が無いね。はっきり言って危急存亡の時じゃないの。我々のアイデンティティやルーツに関わる問題だから手遅れにならんうちに何か手を打たないと。それにはアカシア会メンバーの問題意識をもっと喚起せにゃあいけん。各地のOB会でもっと正確な情報を交換してゆくところから始めてみてはどうだろう？

**甲：**現役生徒諸君にもメッセージをお願いします。

**鬼：**自己責任の下に好きなことが自由に出来ると言う、恵まれた学校だということをもっと感じて、自分の個性を見つけてそれをどんどん伸ばして欲しいですね。情報が溢れている時代だけど上澄みの情報に囚われず、自分の本質に響いてくるものを採り入れて下さい。簡単に言えば、自分が「これだ！」と感じたことを徹底的にやって欲しい。それが勉強でも良し、スポーツでも芸術でも。

　それからサッカー班の選手諸君に一言。最近は全然話を聞かんがどーなっとるんや。一発奮起して百周年の年に全国大会に出場して全国からアカシアのメンバーを集めてみい!!　ワシらに出来ることがあったら協力するし。実現したら附属の応援席には日本サッカー界の重鎮がずらりと並ぶはずじゃ。

**甲・乙：**今日はお忙しいところ、本当に有難うございました。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

**甲：**いやぁ、今日もいい話が聞けたなぁ。

**乙：**ええ。ヤン坊とマー坊は双子で同い年らしいですわ。ヤン坊が兄さんで、マー坊が弟。今年でデビュー45周年になるそうですが、なかなか老けませんねぇ。

**甲：**お前、そんな事聞くなっちゅうたろうが！　で、テレビCMで歌詞を端折っとる件はどうじゃった？

**乙：**判りましたよ。ま、それは次回のお楽しみって事に。

　監督としての厳しいお顔と、にっこり笑った時の楽しそうな笑顔が印象的でした。近畿アカシア会では副会長として、また、創立百周年事業支援委員会委員長としてご活躍いただいています。

甲斐　稔（63回）
谷口　公啓（73回）